

令和4年度 SDGsチャレンジ 一覧表

No.	所属	SDGs17区分	題名	目標・ゴール	概要
1	経営企画課	7 再生可能エネルギーを拡大し 気候変動に 適応する 12 つるぎある 消費を つなぐ	デジタル化の推進及び活用による ペーパーレス化の実現、効率よく働き残業を失くし経費削減を 行う	紙や印刷物の使用を減らし、経費削減に努める。 コロナ禍の中少しでも安定した運営を行う。	全職員に呼び掛け取組を徹底する。 ・デジタル化の推進（導入）。 ・シュレッダーを利用し排紙はリサイクルへ。 ・PCを始めとするOA機器は、使わないときは電源をオフにする。 (席を立つ場合(30分以上)電源オフ) ・長時間使わない時にはコンセントからプラグを抜く。 各所属に周知し、取組を依頼する。
2	経営企画課	3 すべての人に 健康と福祉を 8 働きがいを 増進する 16 平和と公正を すべての人に	人が人を支え共に成長する取組み (人材育成・人材確保に向けて)	役職(等級)への理解、スキルアップ、部下(後輩、同僚)の 育成を行うことで社協職員の理想の姿象に近づく。 継続して働ける職場環境を構築し、福祉人材の定着を図る。	職員の定着に向けた取り組み ・職員のスキルアップを目指し、組織体制の強化を図る。 法人の目標や理念を理解し、社協職員としての自覚を高めるため、内外部 研修の実施。 (考課者訓練、フィードバック面接訓練部下(後輩)の育て方、ハラスメ ント、労務管理、コミュニケーション研修等) ・業務内容や仕事配分の見直しを行い、負荷なく定着できるよう職員一人ひ とりの特性や能力に応じた仕事を任せると。
3	総合相談支援課 (高齢者支援係)	3 すべての人に 健康と福祉を 11 住み続けられる まちづくりを	社協らしい地域ケア会議について	すべての人に健康と福祉を、住み続けられるまちづくりを目 指す	介護保険法で制度化された地域ケア会議は、個別課題解決を通して、ネットワーク構 築、地域課題発見、地域づくりと資源開発、政策形成などを旨とする。現在、年 2回開催しているが、地域包括ケアシステムを構築していくうえで、多職種機関や民生委 員をはじめとした地域住民との連携が不可欠である。地域課題解決のため、社協地域 福祉課とも連携を図りながら社協らしい地域ケア会議のあり方を検討するもの。 ・地域ケア会議あり方検討会議(6月・9月・3月) ・地域ケア会議あり方研修会(7月) ・各エリア地域ケア会議の開催(11月・1月・2月)
4	総合相談支援課 (障がい者支援係) (生活支援係)	3 すべての人に 健康と福祉を 8 働きがいを 増進する	法人内における就労訓練(中間的就労)場の提供	すべての人に健康と福祉を、働きがいも経済成長も	障がい者の就労支援及び生活困窮者支援では、対象者の現状、能力、意欲等を鑑 み、一般就労(または福祉的就労)へ繋いでいくほか、対象者にとって適切な機関へ繋 ぐ等、より適したアプローチを検討している。 その中において、一般就労(または福祉的就労)を目指す上で、就労訓練が適してい る段階の方への場の提供機会があれば、就労への慣らしや意欲の維持向上、社会性 の獲得を図ることができるケースもあったように感じている。 そこで上記を踏まえた取り組みとして、より身近な課内・法人内における就労訓練の 場の提供に組みたい。 < 実施計画 > ① 所属長会議にて就労訓練の場確保の取り組みについて説明。 ② 取り組み該当対象者があった際は、受入部署と調整。スケジュール作成。 ③ 就労訓練実施。一般・福祉的就労に向けた実践的準備、意欲の向上に繋げる。
5	総合相談支援課 (認知症初期集中支 援チーム)	3 すべての人に 健康と福祉を 11 住み続けられる まちづくりを	オレンジの泉	地域住民に対し認知症予防について啓発を行い、参加者が 自発的に取り組めるよう援助できる。	【活動内容】 ① 認知機能評価(スクリーニング) ② 脳活(CogEvoや脳トレグッズを活用した脳機能トレーニング) ③ 認知症介護相談及び予防の啓発活動 【活動計画】 ・笑・話・歯道場各会場: 来場者に対し担当時間内で脳活を行う ・上石津老人福祉センター: 第2水曜日(11:15~12:15) ・認知機能評価対象者10人をピックアップし1年間訪問フォローする
6	在宅福祉サービス 推進課	8 働きがいを 増進する 17 気候変動に 適応する	在宅福祉サービス部門におけるICT環境の整備	在宅福祉サービス部門におけるICT環境の整備を行い、より 多くの職員がICTへの理解とICTの活用につなげる。	在宅福祉サービスステーション、デイサービスにおいて、ICT環境の整備を行う。 ICTに関する機器の操作方法、手順を取得できるよう、都度の対応や研修会等機会を 設ける。法人内におけるICTの動き(勤怠等申請クラウド、ペーパーレス化等)に職員 が対応できるようにする。 デイサービスにおけるICTの環境整備により、職員の業務効率化とご利用者の日中生 活での場面(体操やレク、ボランティアとの交流)への活用につなげていく。

No.	所属	SDGs17区分	題名	目標・ゴール	概要
7	訪問看護ステーション		すっきり文章・バッチリ節約	文章力向上と資源削減	<ul style="list-style-type: none"> 毎月作成する報告書・計画書を印刷前段階での十分な確認を行い、印刷とする。 同意書作成時、PC入力後、裏紙印刷を行い、リーダー添削、その後所長添削を行ってきたが、作成時、修正、訂正がないようスタッフ個々が文章力を養い作成を試みると共に、PC上での添削(添削スタッフ方法については、要検討)印刷は配布物のみとしていく。 添削方法を変えることで、作業時間短縮及び時間の有効活用を目指す。
8	ホームヘルパー室		安全運転への取り組み	無事故・無違反を意識した運転を心掛ける	<p>毎月初めに安全運転に関するトピックなどを職員に伝え、意識づけを進める。 無事故、無違反の継続日数をカウントし、意識を職場職員全員で共有する。</p>
9			健康寿命を伸ばそう！	元気で長生き、元気で働き続けることができるよう、健康を意識した運動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 現在行っているラジオ体操の継続 昼休みの数分程度、簡単にできるストレッチ体操を行う。(階段昇降等でも可)
10	居宅介護支援事業所		すべての人に健康と福祉を	誰もが健康で安全に暮らせるようにしていく	<p>利用者の健康と安全を守ることを基本に、利用者、家族の思いを大切にプラン作成にあたる。 週1回のミーティングにて ・それぞれのケアマネがプランを担当するが、プラン、利用者や家族のことを抱え込まずに4人で話し合う。 ・困難なケースも増えているので、メンタル面も4人で支えあうことを意識して行えるようにする。</p>
11	通所介護 (上石津・墨俣・青野)		3デイ寄れば文殊の知恵	全ての職員が情報を共通に認識し、業務の標準化と改善を図る	<p>どの職員も利用者の情報について共通の認識が持ち、統一した支援が出来るように、各デイで使用しているものを確認し様式を改善していく。 6月 既存の各デイの様式を確認。問題点改善点を確認。 7～9月 共通化した様式について検討 10月～ 3デイ共に共通化した様式を使用</p>
12	通所介護 (青野)		利用者も！家族も！自分も！大切に！！	自分自身の心身安定で利用者に寄り添うサービス提供ができる人と人が支え合う環境を作る	<p>土日祝日休を定期的に取得する。有給休暇の取得率UPする。所属長との定期的な面談。 講習会参加希望者の優先的休暇の取得。</p>
13	地域福祉課	    	今一度福祉の理念を意識して、各事業を展開する。	事業を、理念という普遍的な面と、時代の変化に合わせた面の双方向から捉えて、継続性のあるものとする。	<p>①子どもの居場所作り 子育て応援事業を活用するなどして、わくわくサマーチャレンジ、わくわくウインタースクールなどの事業に子どもを誘う。 参加してくれた子どもたちに、学習の場を提供すると共に、居心地の良い場所となるように場作りをする。 ②災害ボランティアセンター設置、運営 将来、常設型ボランティアセンターの開設ができるように、日ごろから災害ボランティアセンター立ち上げ訓練等の研鑽を重ねる。</p>
14	かわなみホーム	 	廃棄食材の減量	発注を工夫し廃棄食材を減らすことで経費の削減に繋げる	<p>土日に注文しているクックチルドの中止し廃棄食材を減らす 令和3年10月 スタッフ会議にて検討 令和4年11月 土日利用が4名以下の場合、平日の余った食材を使用し調理担当者が献立 を考えて調理</p>

No.	所属	SDGs17区分	題名	目標・ゴール	概要
15	かわなみ作業所	    	みんな体も心もリフレッシュしよう	散歩による体力維持、体力増進。ゴミ拾いによる地域貢献。	生活班は特にコロナ禍で外に出る機会がなくなった。季節の良い時の散歩を取り入れる。その際、グランド周りや地区センターの駐車場のゴミ拾いに取り組む。体も慣れてきたら、JA川並支店周辺まで範囲を広げる。
16	大垣市総合福祉会館		総合福祉会館周辺清掃	会館周辺の美化に努める	毎月第2水曜日に朝8時から20分程度会館勤務職員に協力してもらい周辺の清掃を行う。
17	大垣市老人福祉センター		大垣市老人福祉センター クリーン活動	気持ちよく通行できる道路にしよう！	毎月1回、始業前に職員で建物周辺の市道の清掃活動の実施(ゴミ・タバコの吸い殻・空き缶等拾う)
18	墨俣老人センター		クリーンな環境	清潔感あふれる施設を目指して	利用者が気持ち良く活動出来る様、開館前にセンター内の清掃を行う。マッサージ機やヘルストロンにカバーを常に衛生的に保ち、月に一度クリーニングに出し、衛生的で快適に過ごせるようにする。
19	上石津老人福祉センター		コミュニティバス等を活用した市街地買い物ツアーサポート事業	公共交通機関を活用した高齢者の外出支援	高齢者の社会参加・生きがいづくり及び公共交通機関の利用促進 令和3年度は、4月に再編された上石津地域及び市街地沿線の公共交通網を活用して、老人福祉センター利用者による隣町のスーパーへの買い物ツアーをサポートし、2回目以降は利用者同士が日程調整し、定期的に行き物ツアーを行っていた。令和4年度は、行動エリアを拡大し、名阪近鉄バスを乗り継いだ大垣駅周辺での買い物ツアーをサポートする。5月に実施予定。
20			地区社協実施予定のコミュニティサロンのサポート	公共スペースの利活用による新たなコミュニティの形成	地区社協・市社協など多職種の連携、高齢者の社会参加の推進・心身機能の維持向上及び施設の利用促進 来年度に上石津地区社協が新たに実施を予定しているコミュニティカフェ事業を他の職種や地域住民等と連携してサポートする。具体的には、認知症勉強会や楽器演奏などを試行的に実施予定。